

はじめに

令和元年度は、第4四半期に入って新型コロナウイルスの不安とその影響が懸念される状況が出始め、それ以降は感染防止対策を講じながら様々な工夫を重ね、業務を進めているところです。

令和元年12月、林野庁が公表した「林業イノベーション現場実装推進プログラム」では、具体的取組として、エリートツリー、早生樹の活用により、保育期間の短縮、造林コストの低減等を通じて、早く育てて収穫できる林業を実現するという目標が盛り込まれています。

林木育種の研究・事業を担う当センターとしては、エリートツリー等の特性を山行苗木生産事業者、造林事業者等多くの皆様に認知していただくとともに、優良品種の開発、普及、林木育種技術の高度化を促進してまいります。

第4期中長期計画の4年目となる令和元年度は、計画様々な育種研究開発、種苗の配布等に取り組み、次に示すような成果を上げました。

- * スギ等のエリートツリー69系統、初期成長が優れた第2世代カラマツ、成長が優れた少花粉スギ品種等37品種を開発。スギ等30系統が特定母樹に指定。
- * DNA マーカーを活用し、スギ精英樹の中から無花粉遺伝子をヘテロで有する21系統をスクリーニング、簡易に分析できるDNA マーカーも新たに開発。
- * 温暖化に伴う乾燥が生育や成長に与える影響の系統評価を推進、育種素材候補の抽出。
- * コウヨウザンの3林分から成長、材質等に優れた20系統を選抜。
- * スギの遺伝子の塩基置換により、除草剤耐性を付与することに成功。
- * ケニアのメリアについて、育種開始から7年目で第2世代の優良個体を選抜
- * 優良な開発品種等の種苗を計画的に生産するとともに、都道府県等の要望する期間内に約1.9万本を配布。
- * 開発品種の早期普及を図るため、都道府県等に対し採種園等の造成・改良に関する講習会を開催。

また、「橋渡し」機能の強化に向けた取組みとして、各育種基本区ごとの林木育種連携ネットワーク、北海道、東北、関東、中部等の各地域・組織を跨いだカラマツ育種技術連絡会において、メールマガジンの発行を通じて、林木育種に関する各種情報の発信を行ったところです。

以上のように、令和元年度においては、都道府県、森林管理局・署等関係機関の皆様の協力もいただきながら、多くの成果を上げることができました。

今後とも、林業の成長産業化の実現、花粉症対策、気候変動対応策等様々なニーズに応えるべく、それぞれの地域に根ざした林木育種の更なる発展を目指して参る所存ですので、引き続き皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和3年3月

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所林木育種センター所長 上 練三